

【中学校 第2学年】

平均正答率 (%)

教科	目標値	香取市平均	目標値との差	全国平均
国語	66.2	70.5	+4.3	69.7
社会	51.8	52.3	+0.5	52.2
数学	58.7	57.5	-1.2	59.2
理科	60.3	60.3	0.0	60.5
英語	58.4	53.2	-5.2	58.6

[全体的な傾向]

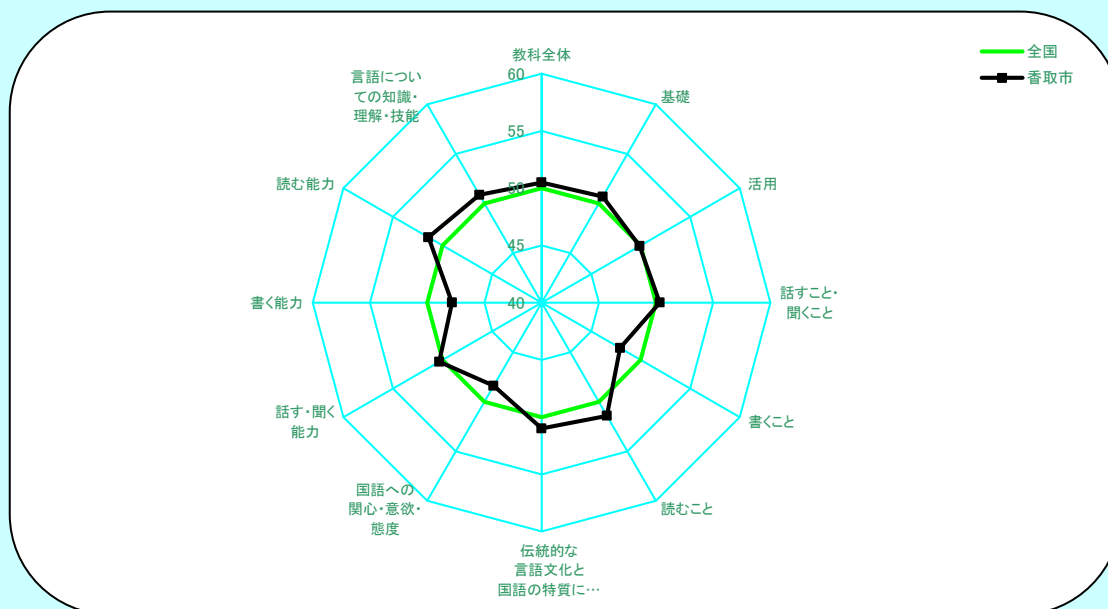
国語と社会は、市平均正答率が目標値と全国平均をともに上回った。理科は、市平均正答率が目標値と同じであるが、全国平均を下回った。数学と英語は、市平均正答率が目標値と全国平均をともに下回った。

全体として、学習の実現状況はやや課題がある。

中学校の教科ごとの傾向

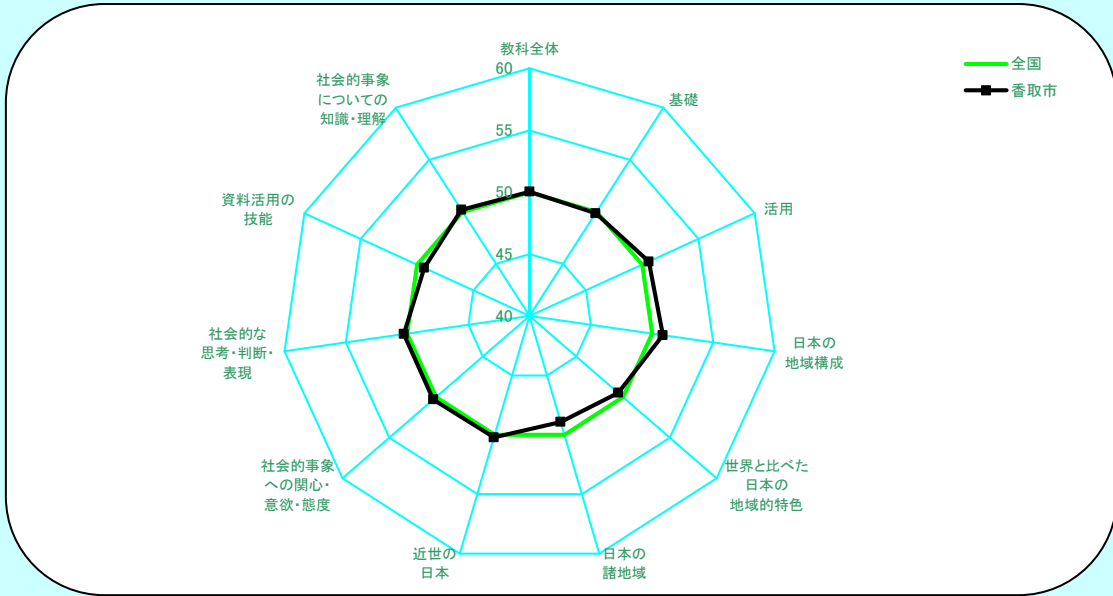
【国語】

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



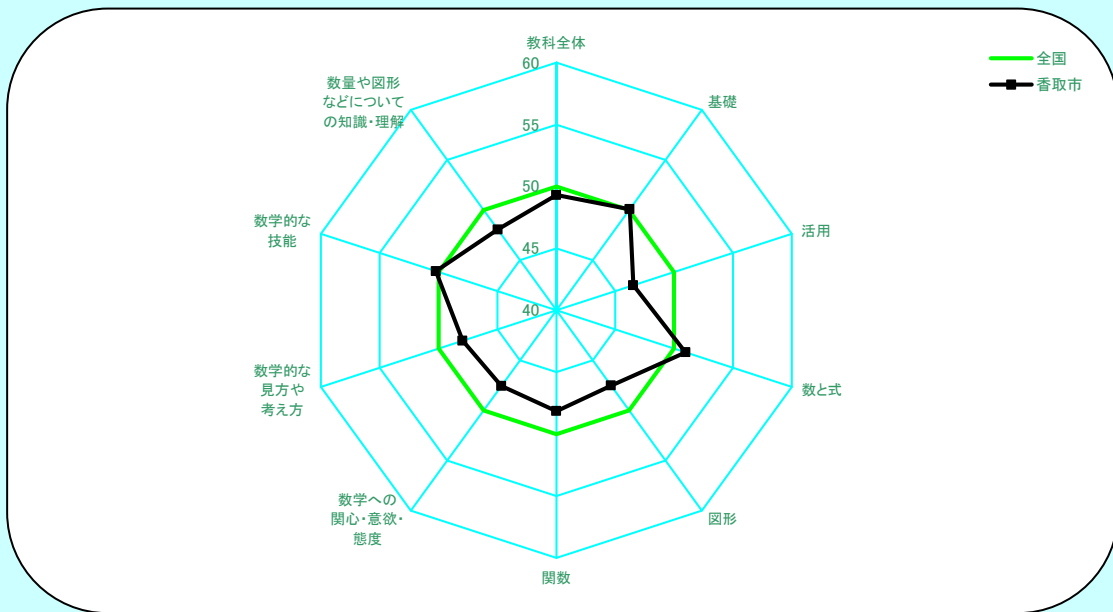
- 基礎は、全国平均よりやや高い。
- 領域別（観点別）では、読むこと（読む能力）、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言語についての知識・理解・技能）が全国平均よりやや高い。
- 領域別（観点別）では、国語への関心・意欲・態度、書くこと（書く能力）が全国平均よりやや低い。

【社会】



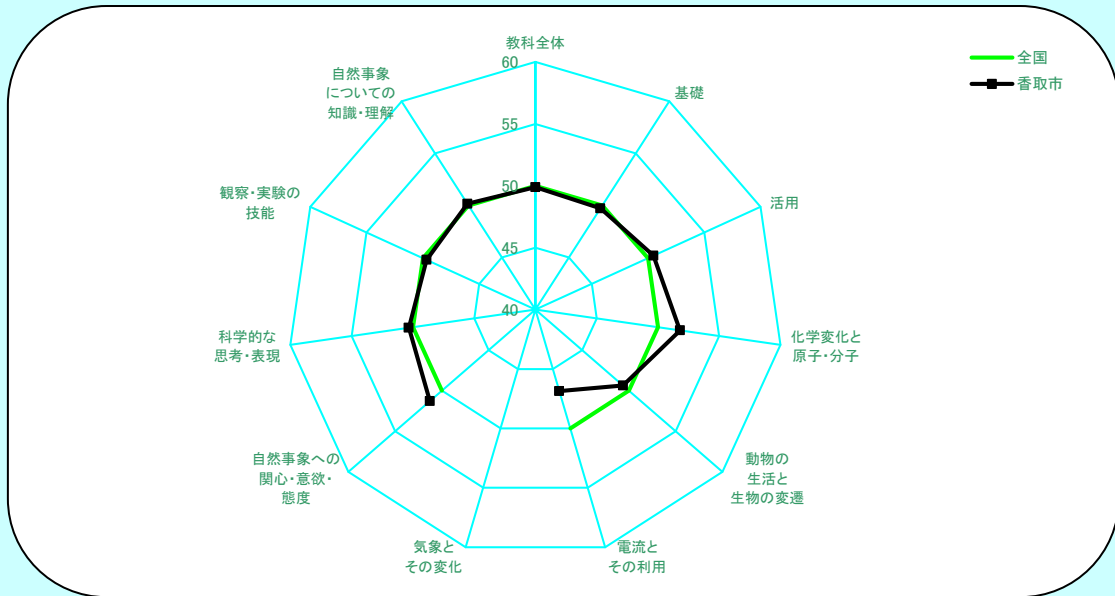
- 活用は、全国平均よりやや高い。
- 領域別では、日本の地域構成が全国平均よりやや高い。
- 領域別では、日本の諸地域が全国平均よりやや低い。
- 観点別では、資料活用の技能が全国平均よりやや低い。

【数学】



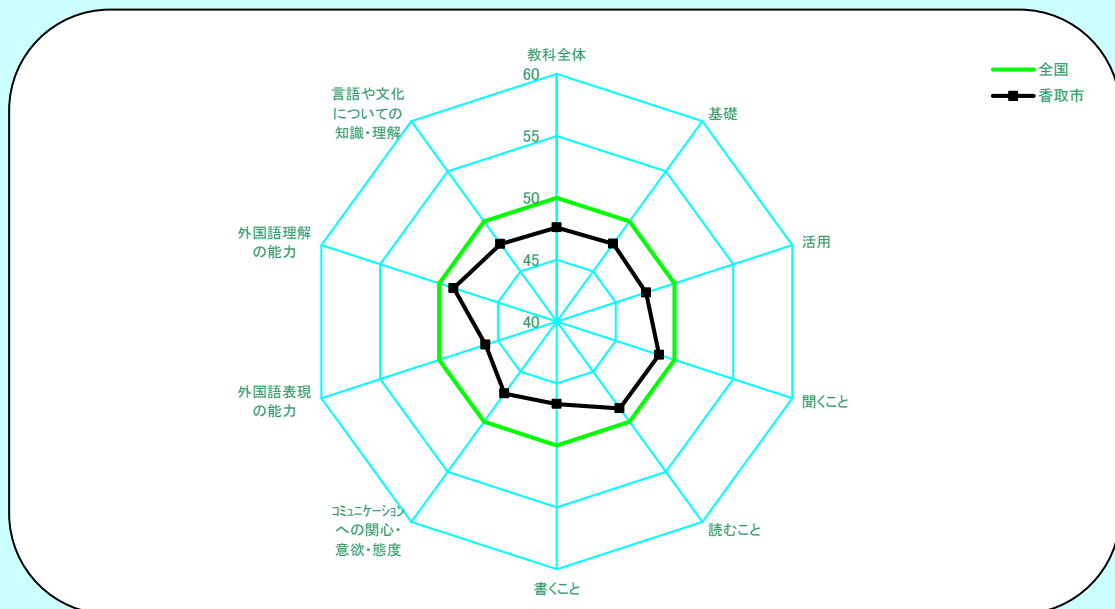
- 活用は、全国平均よりやや低い。
- 領域別では、数と式が全国平均よりやや高い。
- 領域別では、図形、関数が全国平均よりやや低い。
- 観点別では、数学への関心・意欲・態度、数学的な見方や考え方、数量や図形などについての知識・理解が全国平均よりやや低い。

【理科】



- 活用は、全国平均よりやや高い。
- 領域別では、化学変化と原子・分子が全国平均よりやや高い。
- 観点別では、自然事象への関心・意欲・態度が全国平均よりやや高い。
- 領域別では、動物の生活と生物の変遷，電流とその利用が全国平均よりやや低い。
- ※ 気象とその変化は、選択問題のため実施していません。

【英語】



- 基礎・活用とも、全国平均よりやや低い。
- 領域別では、全ての領域（聞くこと，読むこと，書くこと）が全国平均よりやや低い。
- 観点別では、全ての観点（コミュニケーションへの関心・意欲・態度，外国語表現の能力，外国語理解の能力，言語や文化についての知識・理解）が全国平均よりやや低い。